

体育科学習指導案

平成27年10月20日

指導者 佐藤健太郎

場所 体育館

1 単元名

障害（物）走「走れ！とべ！たけのこリンピック！」

2 単元設定の理由

<単元観>

本学級は知的障害学級であり、6年男児1名、3年男児2名の計3名の児童が在籍している。それぞれの学習習熟度に差があるため、教科や単元によって指導形態を変えて学習している。体育に関しては、3人が合同で学習している。そのため、これまでの体育の学習では、どうしても、3年児童の実態に合わせた活動が多くなってしまい、6年児童にとっては、運動量・能力に合わない時間が多くあった。また、決められた活動を繰り返し行うことが多いため、主体的に運動する姿はあまり見られていない。

本単元は、それぞれの実態に大きな差があるため、一つの題材を用いながら、各々の実態に合わせて異なる領域をまたいで単元を構成する。3年生の2名は小学校学習指導要領の体育科、第1学年及び第2学年の体づくり運動の「イ 多様な動きをつくる運動遊び」の「(イ) 体を移動する運動遊び」として学習を進めていく。「体を移動する運動遊び」は、歩く、走る、跳ぶなどの運動を速さやリズム、方向などを変えて行い、体を移動する動きを身につけることができるようにするものである。6年生は、第5学年及び第6学年の「陸上運動」の「ハードル走」とに分けて学習を進めていく。「ハードル走」は、一定の距離の置かれた数台のハードルをリズムカルに走り越し、競争したり、記録に挑戦したりすることを楽しむものである。

3年児童の2人には、様々な段ボールで作った障害物やコーンなどの用具をジグザグに置いて、その間や上を走ったり跳んだりして、体を動かすことの楽しさを知り、運動の基本となる「走の動き」を身につけることにつなげていきたいと考える。また、6年児童には、リズムカルにハードルを走り越す過程を味わったり、それに伴う記録の変化を楽しませたりし、千葉県小学校陸上大会に向けた特設陸上練習への意識も高めることができると考えた。

主体的に活動に取り組むためには、子どもの実態を正確に把握し、それに沿った目標・課題の設定をする必要がある。そこで、子どもたちの「走・跳の運動」に関する「関心意欲態度」「思考判断」「技能」をスモールステップ化した「実態チェックリスト」を作成し、実態把握を行った。

	【関心・意欲・態度 チェックリスト】	A児	B児	C児
準備・ 後片づけ	①運動するための準備をしようとしている。	○	○	◎
	②教師の声かけで、準備や片づけに取り組もうとしている。	○	○	◎
	③友達と協力して、用具の準備や後片づけをしようとしている。	△	△	◎
安全面 について	①準備運動を行い、運動する準備をしようとしている。	○	○	◎
	②怪我をしないように、安全に気をつけて活動しようとしている。	△	△	◎
走るこ とへの 意欲 について	①走ることを楽しもうとしている。	△	△	◎
	②何度も繰り返し練習しようとする。		△	○
	③めあてや記録を達成するために、意欲的に取り組んでいる。			△

	【思考・判断 チェックリスト】	A児	B児	C児
課題設定	①課題に向かって学習に取り組む。	○	◎	◎
	②自分で課題を設定する。	△	△	○
	③課題を解決するために、工夫して取り組んでいる。			△
課題への 取り組み	①楽しく運動するために好きなものを選ぶ。	○	○	◎
	②自分の走力、跳力に合わせて、走る距離や障害物の高さを選択しようとしている。	△	△	○
	③自分の動きを映像や記録で振り返り、課題を意識して練習している。			△
友達との かかわり	①友達と一緒に動くことを楽しんでいる。	△	△	◎
	②友達の動きを見て意見を言うことができる。			◎
	③友達の動きで良かった所を見つけようとしている。			○

	【技能 チェックリスト】	A児	B児	C児
走るこ と	①スタートの合図で走り出すことができる。	○	◎	◎
	②短い距離を完走することができる。	○	◎	◎
	③腕を振って走ったり、膝を上げて走ったりすることができる。	△	○	◎
	④いろいろなコースに沿って走ることができる。	△	△	◎
	⑤全力疾走ができる。			◎
跳ぶこ と	①障害物をまたぎ越すことができる	○	○	◎
	②障害物の前に止まって跳び越すことができる。	○	○	◎
	③障害物の前で止まらずに、片足で踏み切り、低い障害物を跳び越すことができる。	△	△	◎
	④片足で踏み切りミニハードルを跳び越えることができる。			○
	⑤片足で踏み切りハードルを跳び越えることができる			△

◎…よくできる ○…おおむねできる △…あまりできない 空欄…できない

太字…本時の目標にしたところ

<指導観>

「体を移動する運動遊び」と「ハードル走」の二つの目標をそれぞれの子どもたちが同じ時間に、達成できるようにするために、「学習の道すじ」「意欲を高める教材・教具」「かかわり合い」を工夫し、学習を行っていく。

「学習の道すじ」の工夫

A・B児とC児の実態の差が大きいことから、2つの学習の道すじを作成することで、子ども一人一人の実態や課題に合わせた学習になると考えた。

【道すじ1 A児、B児】

A児、B児は、ねらいを一つにすることで、活動への見通しをもちやすくする。活動に見通しがもてることで、少しずつ自分なりの自由な発想が生まれ、自分で作ったコースや友達が作ったコースを飛び越える楽しさや体を動かす楽しさを味わえるようにした。

【道すじ2 C児】

C児は、ねらいを二つにし、めあてを意識してそれに挑戦できるようにする。そうすることで、一定間隔に置かれたハードルのあるコースをリズムカルに跳び越していくこと心地よさや、リズムカルに走り越せるコースで、記録に挑戦する楽しさを味わえるようにした。

○思考・判断を促す場の工夫（A児・B児）

A児・B児には、コースの種類（直線・曲線）、走り方（友達と手をつないで跳ぶ、間をすり抜ける、歩く、速く走る）、リズム、インターバルなどを自分で設定させることで、自由な発想の中で、それぞれの場を楽しませたい。様々な高さ、デザインの障害物を用意し、自分で選べるようにした。安心して活動できることで、めあてをもつことにつながり、達成感や成就感を味わえるようにした。様々な障害物にふれ、それらを操作する中で、その子なりの思考・判断を促していきたい。

○めあてをもち挑戦する場の工夫（C児）

C児にねらい①と②の時間を意識させるために、ねらい①の時間を「わくわくタイム」、ねらい②の時間を「チャレンジタイム」と呼ぶことにした。また、各時間においてBGMを変えることで、より何の時間かを意識できるようにする。ねらい①、ねらい②の時間の切り替えを本人が自分の感覚で切り替えて良いことにする。BGMを変えることによって、自分の意思を表現できるようにする。そうすることで主体的に課題に取り組む態度が育まれるのではないかと考える。

「わくわくタイム」では、自分でインターバルやハードルの高さを調整しながら、リズムカルに走り越す楽しさを味わわせたい。コース上にインターバルの目印となるビニルテープを貼り、自分で自由に調整できるようにする。

「チャレンジタイム」では、自分に合ったコースで記録に挑戦する。成果がより具体的であったほうが、めあてを持ちやすく、タイムが速い遅いなどの感覚も理解しているので、記録に挑戦することが意欲につながると考える。ビデオを取り、映像や記録から自分の学習を振り返ることができるようにする。記録は、毎時間に一回、最後のそれぞれの発表の時間に取り。それ以外の時間では、タイムを意識しながら走れるように、タイマーを使う。何秒以内で走るかを設定し、スタートと同時にタイマーをスタートさせ、ブザーが鳴る前にゴールするという目標を持って、走ることができるようにする。

○「振り返りのための学習カード」

単元を通して、C児は学習カードによって振り返りをしていく。感想を書くことは得意なので、学習カードの蓄積によって、より意欲的になれると考える。振り返る際には、自分の走りを映像で確認したり、前時の記録と比べたりして、具体的な感想がもてるようにする。

意欲を高める場や教材教具の工夫

○興味もてる教材教具の工夫（A児、B児）

まず、障害物に興味を持つことが必要である。障害物について意欲が湧くように、段ボールやペットボトルに好きなキャラクターを貼った障害物を用意して、興味に合わせて選択できるようにする。準備が一人でできるように軽いものを用意する。子どもたちは、「面白そうだ」「やってみたい」という気持ちをもつことができ、「今度の並べ方は…」という発想が生まれてくると考える。

※跳び越える障害物の例

※コース上に置く物の例



高さ 約30cm

高さ 約20cm

○「意欲を喚起する たけのこボード」

一回走るときにシールを貼る、「たけのこボード」を用意する。単元を通して使うもので、走った量を可視化して、走る意欲につなげたい。はじめのうちは、シールをたくさん貼るために走りながら、障害物走を楽しみ、積極的に関わろうとする態度を育てていきたい。C児も使用し、全員の運動量を可視化し、お互いの努力した姿を認められるようにしたい。C児については、ただ一回ごとにシールを貼るのではなく、めあてを達成できたらシールを貼るようにする。A児、B児は白のシール、C児は黄色のシールを使用し、それぞれがどれくらい頑張ったかがわかるようにする。たけのこボードは小さいボードからスタートし、一定量に達したら、どんどん大きくなるようにし、学習の足跡が意識できるようにする。

かかわり合いの工夫

○「準備・後片付け」

3年児童2人は自分だけで準備や片づけをすることが難しいので、C児や教師と一緒に活動することで、準備や後片づけの仕方を理解できるようにする。

○「記録計測・司会進行」

C児が記録を取る時間には、スタート、ゴールの係をA児、B児が行い、C児の記録測定のために協力できるようにする。また、C児が司会進行をすることで、かかわり合いも生まれると考える。C児は発表することが得意なので、意欲的に取り組むことが予想される。

○一緒に運動する

A児、B児は、二人で協力してコースを作る。また、手をつないで一緒に走ったりし、かかわりあいをもたせる。しかし、A児、B児の興味・関心は異なるので、コースの中に二つのルートを考えるなど本人たちの思考・判断を尊重し、柔軟に対応したい。C児にも、A児、B児が作ったコースを走らせることで、彼らの頑張りや良さを感じられるようにする。

○「発表の場」

成果を発表する時間では、A児やB児は自分たちの作ったコースを紹介し、走るところを発表する。C児はタイムを測定する。C児がたけのこボードを使い、「今日のMVP」を発表し、メダルをもらえるようにする。

3 単元目標

A児 3年男	関・意・態 思考・判断 技能	自分たちで作ったコースを自由に走る楽しさを味わうことができる。 障害物などの操作を通して、自分の意思をコース上に表現することができる。 障害物のあるコースを一定のリズムで走ることができる。
B児 3年男	関・意・態 思考・判断 技能	自分の走りたいコースを作る楽しさを味わうことができる。 好きな障害物を選び、自由にコースを作ることができる。 障害物を調子よく跳び越すことができる。
C児 6年男	関・意・態 思考・判断 技能	リズムカルに走ったり、記録に挑戦したりすることを楽しむことができる。 めあてを持って学習し、記録を伸ばすために工夫することができる。 ハードルをリズムカルに跳び越えながら走ることができる。

4 個別の指導計画

【A児・B児】

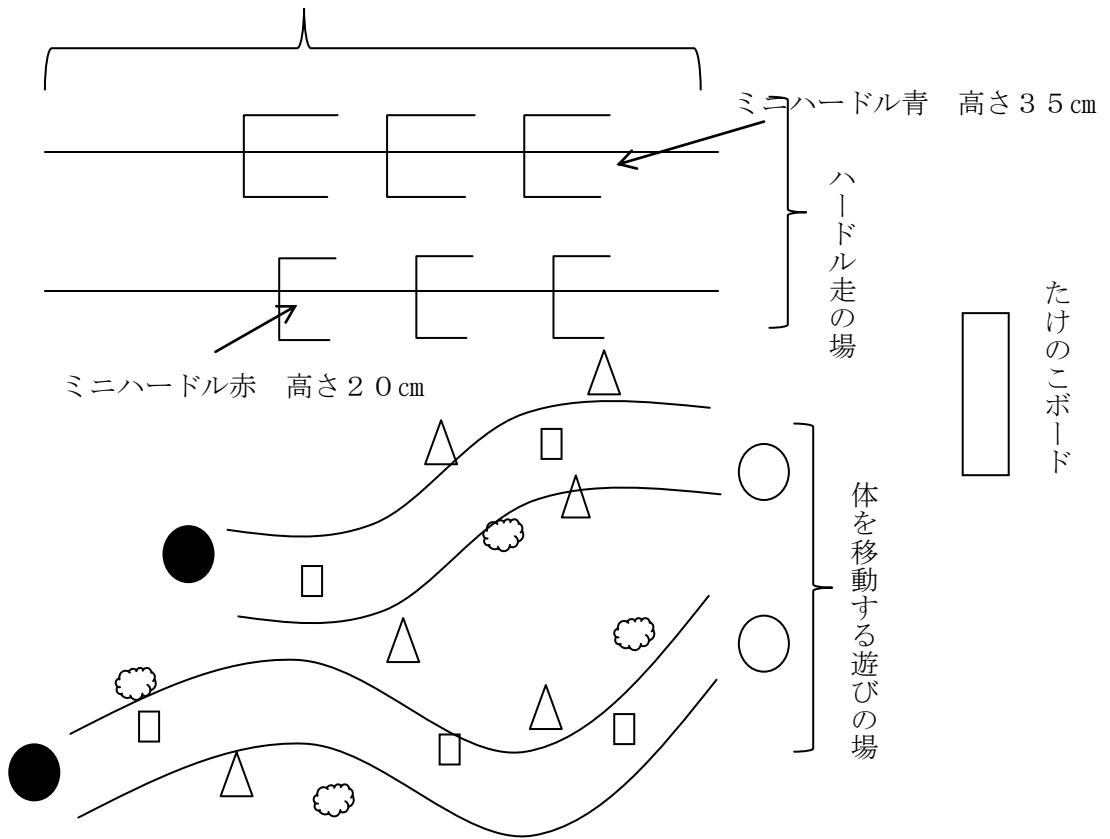
	1, 2	3	4	5	6	7	8	9 (本時)	10
1 ↓ 4 5	準備運動、場の準備								
	オリエンテーション	ねらい いろいろな障害物を自由において、障害物走を楽しむ							
		ふりかえりの時間（成果の発表）							
関・意・態	○	○	○	○	○	○	○	○	○
思考・判断					○	○	○	○	○
技能									○

【C児】

	1, 2	3	4	5	6	7	8	9 (本時)	10
1 ↓ 4 5	準備運動、場の準備								
	オリエンテーション	ねらい① リズミカルに走り越せるコースで、ハードル走を楽しむ							
		ねらい② リズミカルに走り越せるコースで、記録に挑戦する							
ふりかえりの時間（成果の発表）									
関・意・態	○	○	○	○					
思考・判断					○	○	○	○	○
技能					○	○	○	○	○

ステージ

18m インターバルは、3m、3.5m、4m、4.5m



○ →白コーン=スタート ● →赤コーン=ゴール

本時の目標

(1) 個別目標

本時の個別目標		
A児	B児	C児
○自分たちで作ったコースを自由に走る楽しさを味わうことができる。 ○障害物などを操作し、自分の意思をコース上に表現することができる。 ○障害物のあるコースを一定のリズムで走ることができる。	○自分の走りたいコースを作る楽しさを味わうことができる。 ○好きな障害物を選び、自由にコースを作ることができる。 ○障害物を調子よく跳び越すことができる。	○リズムカルに走ったり、記録に挑戦したりすることを楽しむことができる。 ○めあてを持って学習し、記録を伸ばすために工夫することができる。 ○ハードルをリズムカルに跳び越えながら走ることができる。

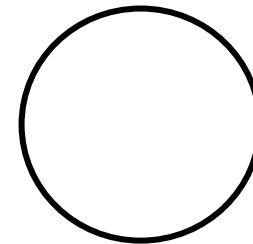
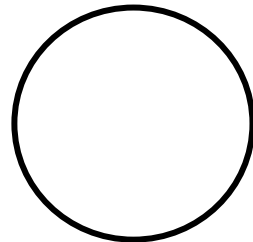
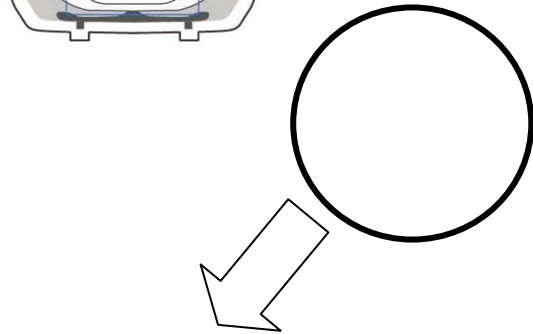
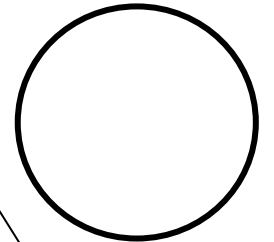
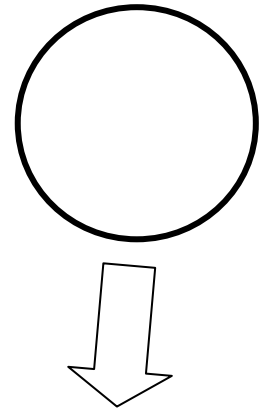
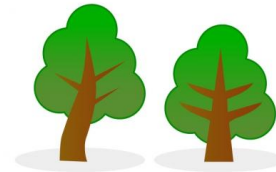
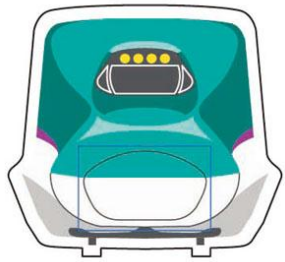
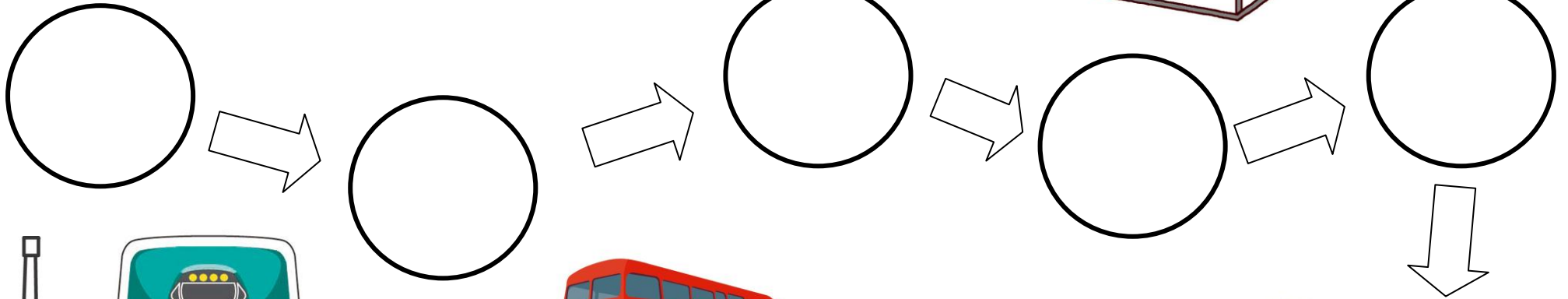
(2) 本時の展開 (9 / 10)

学習活動	支援の方法 (全体支援□、個別の支援○、個別の評価◇)	教材教具		
<p>1 整列・あいさつをする。</p> <p>2 つなぎの運動を行う。たけのこ体操第一 (オリジナル体操) 音楽に合わせてリズムよく体を動かしたり、跳ねたりする。</p> <p>3 学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">走れ！とべ！たけのこリンピック！</div> <p>C児が司会進行をし、A児、B児は学習内容を確認する。 C児「わくわくタイムはみんなで障害物走を楽しみます。3年生はコースを作り、僕は色々なインターバルでリズムよく走ります。途中から僕はチャレンジタイムをします。自己記録を目指します。」</p>	<p>□きちんと整列ができるように声をかける。</p> <p>□児童の前に立ち、模範演技を行う。</p> <p>○ジャンプなどの時には、一緒に手を持って音楽に合わせて動けるようにする。(A児、B児)</p> <p>○ポイントとなる動きをわかりやすい言葉で助言する。(C児)</p> <p>○学習内容、本時のめあてを意識できるように声をかける。(A児、B児)</p> <p>○めあてを再確認し、意欲付けをする。(C児)</p>	<p>障害物</p> <p>ハードル</p> <p>タイマー</p> <p>ビデオ</p> <p>ラジカセ</p> <p>CDラジカセ</p> <p>体操用CD</p> <p>タオル</p> <p>ホワイトボード</p>		
<p>A,B 児の活動内容</p> <p>4 「わくわくタイム」 二人で協力して、障害物を自由に置いて、コースを作って楽しむ。 コースを作り終わったら、コースを一回走ると共に、たけのこボードにシールを一枚貼る。</p>	<p>支援の方法 (個別の支援○、個別の評価◇)</p> <p>○障害物の数や種類を工夫できるようにいろいろな障害物を用意する。</p> <p>○ステージの上を使ったり、曲線のあるコースにしたりしてもよいことを伝える。</p> <p>○様子を見て、一緒に手をつないだり、二人で一緒に走ったりするなどの補助をする。</p> <p>◇自分たちで作ったコースを自由に走る楽しさを味わうことができたか。(A児)</p> <p>◇障害物などを操作し、自分の意思をコース上に表現することができたか。(A児)</p> <p>◇自分の走りたいコースを作る楽しさを味わうことができたか。(B児)</p> <p>◇好きな障害物を選び、自由にコースを作ることができたか。(B児)</p>	<p>C 児の活動内容</p> <p>4ー①「わくわくタイム」 リズムカルに走り越せるコースで、ハードル走を楽しむ ・リズムカルに走り越せたら、一回ごとに「たけのこボード」にシールを貼る。</p> <p>4ー②「チャレンジタイム」 リズムカルに走り越せるコースで、記録に挑戦する。 ・スタートと同時にタイマーを押し、ブザーが鳴る前にゴールできたらシールを貼る。</p>	<p>支援の方法 (全体支援□、個別の支援○、個別の評価◇)</p> <p>○インターバルごとに色を変えてビニルシールを貼っておく。</p> <p>○ビデオを撮影し、自分の走り方を確認できるようにする。</p> <p>○タイマーの時間設定について、走力に合わせて設定できるように助言する。</p> <p>◇めあてを持って学習し、記録を伸ばすために工夫することができたか。(C児)</p> <p>◇ハードルをリズムカルに跳び越えながら走ることができたか。(C児)</p>	<p>障害物</p> <p>ハードル</p> <p>タイマー</p> <p>ビデオカメラ</p> <p>ラジカセ</p> <p>たけのこボード</p>
<p>5 今日の成果を発表する。 A児、B児→チャレンジタイムで作ったコースを走る。C児の記録計測の補助をする。 C児→A児、B児が作ったコースを走る。自己記録に挑戦する。</p>	<p>□A児、B児がどんなところを工夫したか、C児の走り越し方の良いところを伝え、お互いの努力した姿を認められるようにする。</p> <p>○C児が記録を取る際には、A児はスタート係、B児はゴール係をし、計測の補助をする。(A児、B児)</p> <p>◇障害物のあるコースを一定のリズムで走ることができたか (A児)</p>			

<p>6 振り返りをする。 A児、B児→たけのこボードやコースを見ながら、振り返り、学習カードにシールを貼る。 C児→学習カードに反省を記入する。</p> <p>7 今日のMVPを発表し（C児）、表彰式を行う。</p> <p>8 後片づけ・あいさつをする。</p>	<p>◇障害物を調子よく跳び越すことができたか（B児） ○たけのこボードやコースを見て、たくさん走ったことや工夫したことを意識できるようにする。（A児、B児） ○ビデオや記録をもとに、自分の走りを振り返るように声をかける。（C児） ◇リズムカルに走ったり、記録に挑戦したりすることを楽しむことができたか（C児）</p> <p>□全員頑張ったことを褒め、選ばれなかった児童をフォローする。 ○選んだ理由をわかりやすく補足説明する。（A児、B児） ○いろいろな児童がMVPをもらえるように声をかける。（C児） ○どんなところに着目して選んだかを褒める。（C児）</p> <p>□きちんと整列ができるように声をかける。</p>	
--	--	--

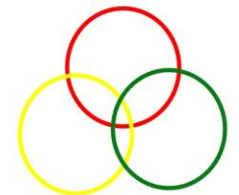
はしれ！とべ！たけのこオリンピック！

○がんばったら、たのしかったらシールをはろう！



なまえ

Takenoko-lympic



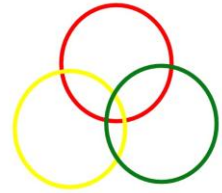
HATA 2015

走れ！とべ！たけのこリンピック！

月 日 () 年 名前

☆今日のめあて☆

Takenoko-lympic



HATA 2015

「わくわくタイム」

「チャレンジタイム」

今日の記録 ハードルの色 () インターバル (m)

秒

楽しく活動できましたか

がんばりましたか

☆今日の感想☆



☆次の時間のめあて☆